

Title	2010年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	横川, 公子
Citation	デザイン理論. 2011, 58, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53616
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2010年度 意匠学会論文賞選考結果報告

意匠学会論文賞選考委員会

委員長 横川 公子

2010年度の『デザイン理論』第55号、第56号の論文賞選考結果が下記のようにになりました。結果および経緯を報告いたします。

1. 2010年度論文賞受賞論文

三木啓介

「リヒャルト・リーマーシュミットの家具デザイン ― 《機械家具プログラム》の考案意図と造形的意義 ―」

2. 受賞理由

受賞論文は、ドイツのデザイナー、リヒャルト・リーマーシュミットが1906年に発表した「機械家具プログラム」を中心として、ドイツ工作連盟の「規格化論争」に至る経緯を詳細に述べたものです。著者の力点は、リーマーシュミットの造形的側面から、「機械」という言葉が規格化と直結するものではなく、ユーゲントシュティールからの連続性を持ったものとして評価し得る可能性を示唆したところにあります。

著者は、リーマーシュミットの家具に内在する土着性に着目し、それをダーウインの進化論やヘッケルのモニスムス、更にはゲーテの形態学やゼンパーの芸術論にも言及しており、この点で、新知見に満ちた労作であることが高く評価されました。

さらに本論文は、リーマーシュミットの初期の機械家具プログラムが、工業化の側面のみならず、社会改革・生活改革と結びついた精神的かつ土着的側面に立脚し、デザインにおける普遍的原型創出の試みであることを炙りだしており、現代の工芸デザインにおける造形的位置づけに関わる点を展望していることも評価されました。

また、高度なドイツ語を中心に外国語文献を読みこなしながら議論を進め、国際的研究水準に立った論考である点でも評価に値し、11本の候補論文の中で、論述の形式、論証の構成点、いずれにおいても群を抜いて説得力があることが評価されました。

3. 選考経緯

『デザイン理論』第55号、第56号に掲載された学術論文および研究報告を対象として、原則的に第54号までの選考方法にのっとり選考しました。すなわち、第一次選考として、各選考委員から上位5位までの論文を選出しました。その際、編集委員会委員長梅宮氏から提供された各論文についての査読結果を選考委員に配布し、選考の参考資料に供しました。1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点と配点して各選考委員による順位を点数化し、集計しました。集計結果と各選考委員からの選考理由に鑑み再度検討し、最終結果として、三木啓介氏による「リヒャルト・リーマーシュミットの家具デザイン——《機械家具プログラム》の考案意図と造形的意義——」が全員一致で1位となりました。

11件の対象論文のうち8件が組上に上げられ、全体としての論文の精度等に関して大差がないともいえます。また第一次選考では、1位なしの2位以下のみ、および同位順位の場合もありましたが、二次選考では高得点者が鮮明になり、論文賞授与者が確定できる結果となりました。各論文の点数は、最高18点、最低3点、平均8.75点。次点の2位が14点、3位が12点となりました。さらに合計点最高位の三木論文は、すべての審査委員の推薦を受けており、2位・3位は4人……8位は1人による推薦となっています。

なお、今回の審査の過程で、『デザイン理論』のアイデンティティを求める意見が2人の選考委員から提示され、多少反映されていたことを申し添えます。但し、そのことが審査結果を左右するまでには至りませんでした。このことは編集方針ともかかわることで、学会としての今後の課題として提起したいと思います。

(論文賞選考委員：今井美樹 塚田耕一 永井隆則 森仁史 横川公子)

2010年度 意匠学会作品賞発表

意匠学会学会賞副委員長

作品賞担当 小 宮 容 一

去る、2010年7月31日・8月1日の両日、関東学院大学関内メディアセンターで開催された、「意匠学会第52回大会」に於けるパネル発表を対象とした作品賞選考と結果について報告する。

1. 作品賞

当該作品無し。

2. パネル発表数 4点

- ① Bea 京姫「CHEKKORI-NOW (息子の部屋)」／大阪芸術大学大学院
- ② 吉原卓男「空中の集落 沖の島」／大阪芸術大学通信教育部環境デザイン科
- ③ 村田裕子「『主婦之友』にみる昭和初期の洋装子供服について」／大阪大谷大学短期大学部
- ④ 伊地知栄美「ワイルドライフ・アートとしての鳥類画 ― 観察と観望学視点から ―」／大阪芸術大学大学院

3. 選考対象作品

今回の発表の内、②吉原卓男氏は沖の島の現地調査と環境計画的分析の研究発表であり、又、③村田裕子氏は昭和初期の洋装子供の研究とその復元で、研究発表と見なし作品賞選考外とした。残る2点、①Bea 京姫氏と④伊地知栄美氏の作品を対象として選考した。



Bea 京姫「CHEKKORI-NOW (息子の部屋)」



吉原卓男「空中の集落 沖の島」



村田裕子「『主婦之友』にみる昭和初期の洋装子供服について」



伊地知栄美「ワイルドライフ・アートとしての鳥類画
— 観察と観望学視点から —」

4. 選考過程

31日13：30～14：30の現地 関東学院大学 関内メディアセンターでのパネル発表に、選考委員小宮、櫛、橋本3名が参加、聴講する。事後3者で会議・意見交換。他の5名の選考委員については大阪選考会（芦屋大学大阪キャンパス）を持つ事とした。作品は、③村田氏の作品を除き、1日午後宅配便で大阪に搬送した。村田氏の選考については、1日の役員会において、大阪選考会の場に作品・パネルが無いものの選考対象とする決定がなされた。これを受けて大阪選考会では、発表時のビデオ及び写真を選考資料とした。

大阪選考会は、8月6日10：00～12：00 小宮、塚田、中野、7日15：00～17：00 小宮、川島、谷口、森田、橋本の参加で開催された。議論の末、作品賞のレベルに到達した作品は無いとなった。ただ、パネル発表・作品賞を取り巻く諸般を鑑み、今回初ではあるが『奨励賞』を設け、①Bea氏に授与したいとの作品賞選考委員会としての結論を得た。この旨を役員会に提案した。2



大阪選考会

度の役員会での検討の結果、『奨励賞』が学会規約に無いこと、意匠学会賞自体が奨励賞の意味を持つものであること等により、2010年11月例会の役員会で、2010年度の作品賞当該作品無しとなった。

5. 選考委員

小宮容一、川島洋一、櫛勝彦、谷口知弘、塚田章、中野仁人、橋本英二、森田雅子（以上8名）。